

# フランスの草刈る人々

Story From People in France

今、ORECの草刈機は、より有機的な農法に取り組もうと挑戦を続ける人々に支持されています。その中には、シャンパンで有名なシャンパーニュ地方の「モエ・エ・シャンドン社」やボルドー地方のグラン・クリュ（特級畑）のぶどう生産者も名を連ねています。海を越えてつながるORECユーザーのみなさんに、なぜORECを選ぶのかを聞いてみました。

“ORECはシャンパーニュのぶどうのために、幅の狭い草刈機を開発してくれたんだ”

「ぶどう棚の間隔の狭さが  
シャンパーニュらしさだよ」

『シャンパン』とは、シャンパーニュで製造された発泡ワインだけが使うことを許された称号です。それだけに、原材料を栽培するぶどう畑も、他エリアと大きく違う特色を持っているんですよ。

そう教えてくれたのは、ORECマシンを販売するディーラー「COLLARD」の2代目。「ぶどうの棚と棚の間がとにかく狭いんです。わずか1m前後しかない。なぜこの幅なのかって？それは農地の価格が驚くほど高いから。1haで90~100万ユーロ（1億円程度）となると、少しのスペースも無駄にはできないんです。

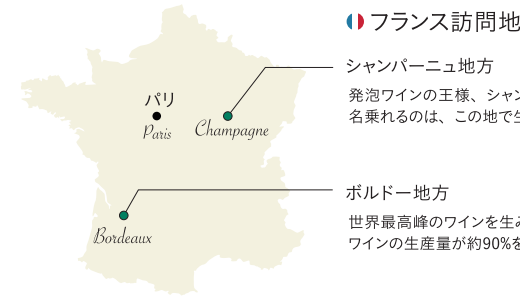
収穫されるぶどうは、それだけ価値あるものです。しかし、この幅に入れる乗用タイプの草刈機がなく、シャンパーニュの人々が苦勞を重ねたのも事実です。

「気に入ってるんだ、  
我々の声に応えてくれるから」

照りつける太陽の下、刈払機を担ぎ、人力で行う草刈りほど体力を奪われるものはありません。巨大なぶどう畑専用トラクターを動かし、草を削ることもできますが、畑が連なる丘陵は傾斜がきつくと、転倒事故の心配も。大型機械で踏み固められた土は固くもなるそうです。「ですからORECにオーダーしたんです。この地で使える乗

用タイプの草刈機をつくってほしいとね。現場の要望を細かく聞いてくれる彼らなら、応えてくれると期待していました。

ORECが創業以来、持ち続けている“世の中に役立つものを誰よりも先に創る”の精神は、世界のどこでも変わりません。OREC貿易グループの社員たちは、持ち帰った声を、開発グループへ早々にフィードバック。車体の幅を究極までコンパクトにしたラビットモアー（乗用タイプ草刈機）を製品化し、2015年の秋、最初の1台を送り届けました。“いいもの”であれば生産者間でまたたく間に話題となるものです。それから1年後、100台以上のラビットモアーがシャンパーニュのぶどう畑を駆けるようになりました。



フランス訪問地

シャンパーニュ地方  
発泡ワインの王様、シャンパンの産地。シャンパンと名乗れるのは、この地で生産されたものだけ。

ボルドー地方  
世界最高峰のワインを生み出す一大産地。赤・ロゼワインの生産量が約90%を占めています。

## フランスの農業

▶ 日本の約1.5倍ある国土面積の約半分が農用地で、その面積はEU最大。農業生産額もEU全体の約18%を占め、第1位となっています。

## EUの農業のこれから

▶ 消費者のオーガニック志向が高まり、農薬や除草剤の使用を極力避ける生産者が増加。現在も、農業の使用について厳しい規制がありますが、2018年12月以降、さらに新しいルールが追加される予定。

「『モエ』や『ドンペリ』の畑で、  
使われているとはニュースだね」

今、ラビットモアーは、シャンパンの代表的ブランド「モエ・エ・シャンドン」や「ドン・ペリニオン」の自社農場でも使用されています。最上級ブランドに選ばれた信頼性とMade in Japanの高性能・高品質が評判で「うちでも使いたい」という生産者が増えています。

「らくで、安全な、農作業を」と願う気持ちに、国境はありません。もちろん農業王国のフランスにおいてもそうです。“世の中に役立つもの”をつくれれば、世界が認めてくれる。シャンパンのうまれる場所で、ORECはその事実を証明しています。



1	2		
		4	5
	3		

1. ディーラー「COLLARD」での様子。
2. シャンパン製造会社「GRUET」の畑でもORECマシンが活躍中。
3. かの有名な「モエ・エ・シャンドン社」の農園事務所を訪問。
4. 自走式の草刈機も狭い棚間で活躍しています。
5. 修道士のドン・ペリニオンがシャンパンづくりに助んだオーヴィエの村で、ORECの古い自走式草刈機と遭遇。修理をしながら、大切に使い続けてくれていました。

淡いグリーンがうねるように横たわる美しい丘陵。シャンパーニュ地方のぶどう畑はフランスを代表する景色として、世界遺産にも登録されています。（モエ・エ・シャンドン社の農園にて）